PRO DEO ET PATRIAを教育理念に
英国型リベラルアーツ教育を実践し、
「専門性に立つ教養人」を生み育てる

2024年、立教大学は創立150周年を迎えました。1874年に私塾「立教学校」として設立されて以来、英国型リベラルアーツ教育のもと普遍的真理を探究し、世界や社会のために働く者を生み育てるというミッションを実践してきました。

2021年には、立教大学における活動の根源的原理となる「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言(1)」を公表し、人間の尊厳を自覚する教育に注力。2026年には文理融合型の「環境学部」を新設するのをはじめ、学士課程統合カリキュラム「RIKKYO Learning Style」の充実を図ります。また、グローバル教育やリーダーシップ教育、データサイエンス教育の充実をはかり、150周年の先を見据えて「自由の学府」の「自由な学び」のさらなる進化に取り組んでいます。

にしはらけんた
西原廉太総長

1987年京都大学工学部金属工学科卒業。95年立教大学大学院文学研究科組織神学専攻博士課程前期課程修了。2013年関西学院大学大学院神学研究科（博士）。専門は神学、アングリカニズム。立教大学教授、2021年より現職。キリスト教学校教育同盟理事長。日本私立大学連盟常務理事。

立教大学

〒171-8501　東京都豊島区西池袋３-34-１　入学センター　TEL 03-3985-2660　https://www.rikkyo.ac.jp/

建学の理念を再確認し オンリーワンの大学を目指す

アメリカ聖公会の宣教師ウィリアムズ主教が１８７４年、キリスト教精神に基づく人間教育を日本で普及させようと「立教学校」を築地に開設してから昨年で１５０周年。これを機に立教大学では「普遍的なる真理を探求し、世界、社会、隣人とつながるために、Global Liberal Arts & Sciencesを究める大学へ」をキャッチフレーズに「未来構想」を発表しました。

ウィリアムズ主教が日本の若者に伝えようとしたのは、アメリカ聖公会の源流にあるイギリス国教会を背景に発展してきた英国型のリベラルアーツです。12世紀頃からオックスフォード大学やケンブリッジ大学で脈々と受け継がれてきた伝統的な教育スタイルです。

西原廉太総長は、建学の精神について次のように語っています。

「教育理念であるラテン語の『PRO DEO ET PATRIA』は、直訳すると「神と国のために」ですが、私たちは『普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために』と解釈しています。これこそがリベラルアーツを重んじる本学の精神であり、１５０周年を機にその建学の理念を再確認しつつ、時間と空間を超えて人と人をつなぎ、世界につながる大学であることを大切にしながら、教える者と学ぶ者、それを助ける者が真に誇れる大学へと不断に変革していきます。そして、日本で、さらには世界で輝くオンリーワンの大学となることを目標とします」

具体的には、Global Liberal Arts & Sciences教育のフラッグシップとしての「グローバル・リベラルアーツ・プログラム」（ＧＬＡＰ）(2)を強化することと「環境学部」を新設することをメインに、「RIKKYO Learning Style 2.0」を展開します。さらに立教大学の国際化を推進するとともに、一線級かつ最先端の立教大学の研究力強化、大学院教育の充実、正課外教育・正課外活動の充実、立教学院一貫連携教育と聖公会関係学校連携強化などを目指します。

専門性に立つ教養人を育成するリベラルアーツ

リベラルアーツは一般に教養と訳されていますが、立教大学が１５０年にわたって取り組んできたリベラルアーツの本質は「専門性に立つ教養人の育成」です。専門という確かな軸を持った上で、さまざまな学びの分野に触れ、広く深い視野と多面的かつ柔軟なものの見方を養うことを重視しています。

「あらゆる縛りから解き放たれて自由になるための技法がリベラルアーツであり、本学では『人格の陶冶』に重きを置いています。西洋の大学は修道院がルーツになっており、共に祈る、共に学ぶ、共に生活するという3つの勤めがあり、オックスフォード大学やケンブリッジ大学にもその伝統が継続されています。本学の池袋キャンパスにもそれが生かされています。現在の2号館、3号館はもともと寄宿舎だったのです。本学のキャンパスは美しいと言われますが、それは確固たるリベラルアーツの思想に基づいて設計された姿だからです」（西原総長）

その教育を体現するのが「全学共通科目」です。また２０１６年度にスタートした「RIKKYO Learning Style」は、大学での４年間を導入期、形成期、完成期の３段階に分類し、とりわけ入学後約半年間の導入期を重視。「立教ファーストタームプログラム」として体系化し、「学びの精神」というカテゴリーを設けて学びの意味・意義について理解を深める一方、プレゼンテーションスキルやライティングスキル、データ活用法といった「学びの技法」の修得にも注力します。１５０周年を機にそれをさらに進化させようというのが「RIKKYO Learning Style 2.0」というわけです。

さらに「グローバル教養副専攻」として、所属学科で学ぶ分野以外の幅広い知見に触れる３コース・23のテーマを設置しています。

多様な経験値を結集させる独自のキャリアデザイン

RIKKYO Learning Styleでは、形成期、完成期でのプログラムも多彩です。「グローバル・リーダーシップ・プログラム（立教ＧＬＰ）」は、企業や団体から提示された課題について、論理的かつ実践的な解決策の策定に挑みます。個別事例における課題解決能力を磨きながら、グループワークでのリーダー経験や、下級生のサポートなどを通じてリーダーシップを養います。

立教サービスラーニング（ＲＳＬ）は、真理を探究するための学びの成果を社会貢献につなげる社会連携型教育の一つ。国内だけでなく、トリニティ大学のあるフィリピンなど海外でも実施しています。この立教ＧＬＰやＲＳＬは、企業やＮＧＯ、地方自治体などと一体となって取り組む全学共通の社会連携・地域連携プログラムで、学部の垣根を取り払うことで、学生同士も刺激し合い、知識や教養を深めることができます。さらにデータサイエンス教育の全学展開を図っています。

また、就職支援だけではなく、正課および正課外でのキャリア支援や、1・2年次から参加できるプログラムなど総合的なキャリアデザイン形成を行っています。

２０２６年、文理融合型の「環境学部」を創設

立教大学は２０２３年４月、新座キャンパスにスポーツウエルネス学部を開設しましたが、２０２６年４月には池袋キャンパスに、文系・理系の枠を超えた新学部「環境学部」を新設。気候変動や生物多様性の損失、海洋汚染など、世界中で深刻化している環境問題を解決するため、グローカルかつ分野横断的な対話と協働に基づく行動力を備え、公正でサステナブルな社会への変革に貢献できる、次代の「立教型環境リーダー」を育成します。

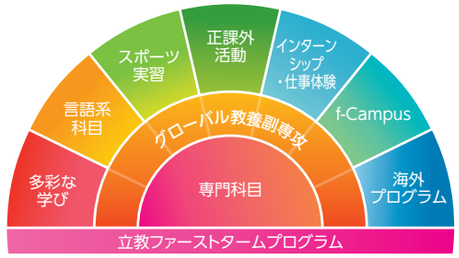
カリキュラムでは、教員の半数を理系の教員で構成し、科学を重視した「環境」をメインテーマとする文理融合のリベラルアーツ教育を展開。地域や企業などと連携した課題解決型学習や、少人数クラスの授業など、立教大学独自のリーダーシップ教育を通じて「対話」と「協働」に必要なスキルを習得します。

さらに、フィールド教育では国内外の地域を訪れ、多様な立場による さまざまな人々との対話と協働を通して世界の環境問題に実践的に取り組むなど、これまでにない学部プログラムを編成します。環境をとらえる多角的な視座とリーダーシップ、専門性と現実を結びつける実践力を育むとともに、環境問題の「不公平」な現実に向き合い、「公正」な社会を目指す〝環境正義〟の考え方に基づき、社会を変革していく意思を共有していきます。

卒業後の進路としては、環境省をはじめとする官公庁や地方公共団体はもちろん、環境・サステナビリティに積極的に取り組む企業やＮＰＯ・ＮＧＯ、中学・高等学校教員、さらに、環境領域に限らずネットワークやリーダーシップを重視する企業等での活躍も期待されます。大学院への進学も支援します。

西原総長は「２０２１年に立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言を公表しました。個人の人格と尊厳を大切にすることを定めたもので、この宣言を立教大学における、あらゆる活動の根源的原理としています。学生は、池袋と新座の美しいキャンパスで四年間を過ごすことができ、図書館をはじめ各施設も充実しており、その空間の中で学べるのは立教ならではです。私たちは、一人ひとりの学生の存在を大事にしたいと思っています。個々の学生にカスタマイズした丁寧なティーチメイドの教育をしていきますので、自由の学府で自由に学んでいただきたい」と受験生にエールを送っています。

授業とさまざまな活動を通じ、着実に成長できる学びの体系



立教ファーストタームプログラム
アクティブ・ラーニングや少人数教育を取り入れた授業で、高校とは異なる大学での学びに必要な基礎力を身につけます。

専門科目
学科ごとに構成された独自のカリキュラムで、専門領域を深く追究。各研究分野の第一線で活躍する教員が授業を行います。

グローバル教養副専攻
学部の専門性に加え、グローバルかつ多面的に物事を考える力を身につけるための学部横断型の教育プログラムです。

多彩な学び
立教大学のリベラルアーツ教育の主軸となる科目。多様なテーマと向き合い、分野を越えた幅広い知識と教養を身につけます。

言語系科目
英語と初習言語を必修とし、さまざまな人と交流できる言語運用能力の習得を目指すとともに、異文化理解を深めます。

スポーツ実習
実技や講義で心身の成長を促します。講義ではスポーツがもつ文化的側面や、健康維持に関する知識も学びます。

正課外活動
サークルやボランティアといった課外活動をはじめ、海外体験、キャリア支援プログラムなどをとおして広い視野を育みます。

インターンシップ・仕事体験
企業や官公庁などで就業体験を行います。実習をとおして自ら気づき、考える力が養われ、キャリア形成に役立ちます。

f-Campus
協定を結んだ他大学のキャンパスで、多様な科目を履修できます。修得した単位を卒業要件単位に組み入れることも可能です。

海外プログラム
大学間または学部間協定による派遣留学や、短期語学研修など、目的・期間に応じた多様なプログラムで見識を広げます。

(1) 立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言

すべての学生、教員、職員にとっての行動規範。

1．立教大学は、キリスト教に基づいて人格を陶冶し、人間の尊厳を自覚する教育をおこないます。
2．立教大学は、みずからの学びと体験を他者に伝達し、他者と共有できる感性と知性をもった人間を育てます。
3．立教大学は、あらゆるキャンパス・ハラスメントに対し、断固たる態度でこれを排除し、防止します。

(2) グローバル・リベラルアーツ・プログラム（GLAP）

英語による科目で構成されたグローバル・リーダー育成のための学位コース。他者を尊重し寄り添いながら世界の新たなあり方を見据え、自ら考える力と人間性を養う。１学年30名の少人数教育で、２年次秋学期から３年次春学期まで原則全員が海外の協定校に留学する。帰国後はHumanities、Citizenship、Businessの３分野から自分が興味・関心をもつ領域を選択し、専門分野の学びを深める。交換留学生と共同生活を送ることができる学生寮も完備している。